

末松遺跡

すえまつ

富奥の歴史の空白が埋まる



発掘調査風景



大小様々な穴（人の生活の跡）がたくさん見
つかりました※穴の形は白線でなぞっています



ほったてはしらたてもの
掘立柱建物が1棟みつけられました（赤枠）



穴の中から土器（土師器碗）が割れていない
状態で出土しました

末松遺跡は、末松、中林、清金に広がる市内で最も広大な遺跡です。以前に発掘調査した成果では、奈良時代から平安時代前半（8～10世紀中頃）と、鎌倉・室町時代（13世紀～15世紀）に人々が暮らした跡が見つかりました。

昨年、なかばやしとちくかくせいりじぎょう
中林土地区画整理事業のために中林二丁目の一部を発掘調査したところ、平安時代後半（10世紀中頃～11世紀）の集落跡が見つかりました。この集落跡の発見によって、この地では奈良・平安時代において途切れることなく生活が連続と続くことがわかりました。

主な時代

平安時代後半

場所

中林2丁目

調査年度

平成29年度～（現在進行中）

